

令和7年度熊本県立美術館協議会議事録

【開催日時】令和8年2月6日（金）午前10時00分～12時00分

【開催場所】熊本県立美術館本館 文化交流室

【出席者】協議会委員10名 事務局職員 文化課 分館指定管理者
傍聴：なし

【主な議事】（1）熊本県立美術館運営ビジョンに基づく令和6年度（2024年度）
熊本県立美術館本館事業報告

（2）熊本県立美術館分館（指定管理）の運営について

【議事概要】1 開会 2 美術館長挨拶 3 協議会委員紹介 4 会長選出
5 会長挨拶 6 議事 7 閉会

協議会委員名簿、資料、概要等は別添のとおり

1 開会

○事務局

それでは、ただいまから令和7年度熊本県立美術館協議会を始めます。議事に入る前に、館を代表しまして館長の白石より一言ご挨拶をさせていただきます。

2 美術館挨拶

○館長

本日は大変お忙しい中に当協議会にご出席をいただきありがとうございます。

美術館では昨年度に運営ビジョンを策定し、「熊本の宝を守り活用し、そして誰もが楽しめる美術館」を基本理念とし、活動を進めているところです。本日はビジョンに沿ってそれらの取組等を説明し、美術館の運営に関してご意見をいただければと思います。

議事後、報告事項として、途中ではありますが今年度の取組み、そして来年度の取組みとして50周年を迎える美術館の色々な企画について、御説明いたします。

限られた時間でございますけども、皆さんから、それぞれの専門的見地から御意見賜れらばと思っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局

本協議会は、博物館法第23条、熊本県立美術館条例第21条に基づく博物館協議会であり、熊本県立美術館の運営に対して広く意見を伺う場として設置するものです。各委員につきましては熊本県立美術館協議会次第の2ページに掲載をしている名簿の通りです。今回から新たにお願いを申し上げた委員の皆様もいらっしゃいますので一言御挨拶をお願いいたします。

（委員挨拶・省略）

○事務局

ありがとうございました。なお本日は12名の委員の方々のうち、熊本県立劇場理事の米野真理子委員と、熊本大学教育学部教授の松永拓己委員の2名が御都合により御欠席で、10名の方々に御出席をいただいております。

3 会長選出

○事務局

それでは会長選出に移ります。本協議会の会長は、県立美術館条例第21条第7項の規定により、委員の皆様方の互選により選出いただくこととなっております。皆様いかがでしょうか。

○委員

僭越ながら3期をお勤めいただいております、坂本ミオ委員を御推薦したいと思っております。皆様いかがでしょうか。

(委員同意)

○事務局

坂本委員いかがでしょうか。

○坂本委員

私でよろしければ務めさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございます。それでは本協議会の会長を坂本委員にお願いしたいと思えます。席の御移動の方お願いいたします。協議会の議事の進行につきましては規定により会長が行うこととなっておりますので、これより会長に進行をお願いいたします。坂本会長どうぞよろしくお願いいたします。

4 会長挨拶・副会長選出

○会長

坂本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。熊本市男女共同参画センターの館長を務めておりました2021年度から、この委員を3期務めております。当時と仕事は変わりましたが、変わらず家庭教育の視点からということが私の委員としての役目かと思っています。皆様の御意見を毎回聞きながら、大変勉強させていただいているところです。この度はちょっと不慣れな役を仰せつかりましたので、皆様の御協力なくしては進行できないかと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

(副会長選出)

ではまず本協議会の副会長の選出を行いたいと思います。条例によりますと会長が指名するということになっておりますので、私の方から指名させていただければと思います。同じ3期を務めております清川委員にお願いできればと思いますがいかがでしょうか。

(清川委員同意)

ありがとうございます。では清川委員よろしく願いいたします。

(会議の公開・非公開の審議)

では議事に入る前に、会議の公開・非公開についてですが、本日の議題内容には非公開とすべき内容がございませんので、すべて公開ということによろしいでしょうか。

(委員一同賛同)

それでは、すべて公開ということで進めさせていただきます。

5 議事(1)

熊本県立美術館運営ビジョンに基づく令和6年度熊本県立美術館本館事業報告

○会長

議事の1番目は熊本県立美術館運営ビジョンに基づく令和6年度熊本県立美術館本館事業報告についてです。事務局の方から説明をお願いいたします。

○事務局

それでは熊本県立美術館運営ビジョンに基づく令和6年度の事業報告につきまして御説明いたします。資料は1と2の2部で、1が事業の詳細、2がビジョンの報告になります。資料にそって御説明いたします。

(以下、資料にそってビジョンへの取り組み、実績、今後の課題等について説明)

- ・ビジョン1ー(1) 展覧会活動について
- ・ビジョン1ー(2) 教育普及活動
- ・ビジョン2ー(1)～(4) 美術品等の収集・保管・研究
- ・ビジョン3ー(1)～(3) 地域活性化・交流促進
- ・ビジョン4ー(1)～(5) 環境・施設設備

質疑応答

○会長

ありがとうございました。大変豊富な内容ですね。活発な活動や行動を重ねている姿を知ることができたと思いますが、一方で課題も明らかになっているかと思います。皆様の方から、こちらの御報告について、御質問や御意見などがあったらいただきたいと思います。

○委員

素敵なイベントやカフェなど、工夫されていることがたくさんあることをこの場で知

りました。この“知る”ということが大事だと感じていて、学校団体の受け入れ数は多いと思いますが、1校あたりの人数を見ると22名で、美術に興味のない子どもたちへも届くようにもっと広めていただけるといいなと思いました。SNSだけでなく、県のPTAというネットワークを活用してみてもいいかもしれません。ミッフィーの展覧会など、知っていれば「行ってみたい」と思う子も多いと思うので、子どもたちが一歩踏み出せるような、もう一工夫があるとさらに広がるのではないかと感じました。

○会長

ありがとうございます。広報はずっと前から課題になっているところなので、皆さんの御意見聞きながら進めてもらえればと思います。その他にありませんか。

○委員

ホキ美術館展、ディック・ブルーナ展も鑑賞させていただきました。生徒の一人が大学受験の面接の時にホキ美術館展の話をしました。その生徒は展覧会で超写実の作品を見て「自分が表現したいのはこれじゃない」と気づいたそうです。その違和感を整理して面接試験では自分の表現について語ることができました。無事に合格して、今は美術の先生を目指して頑張っています。そういった“違和感”を引き出してくれるのも美術館の良さだと感じました。

あと、ディック・ブルーナ展にも家族で鑑賞させていただきました。少し前に熊本市現代美術館でのサンリオ展を見ていて、ブルーナ展もキャラクターの似たような展覧会かと思っていたのですが、全然違っていました。ブルーナは、芸術家・画家であって、色を数色に絞り、良い線を引くために本当に工夫して制作をしていたと感じました。県立美術館で扱うなら（商業ベースではなく）、芸術家寄りのブルーナ展の方が適当だと感じました。現代美術館との差別化の大切さも感じられました。

またワークショップも良かったです。小学生の息子が色鉛筆やパレットを使って制作して、ブルーナについて知る良い経験になりました。グッズもこだわった良いデザインのものが多く、購入させていただきました。

パネルやフォトスポットもたくさんあって、昔の展覧会と比べて最近は本当に充実してきているなという印象を受けました。ありがとうございました。

○会長

ありがとうございました。実際に行かれての感想や経験をお話しいただいて、大変貴重だったと思います。また、現代美術館との差別化は課題としてあるかと思うのでぜひ参考にしていただければと思います。

○委員

本当に充実した活動をされていて、まず、第一印象として素晴らしいなと感じました。細かい点で専門的な話になってしまうかもしれませんが、幾つか質問させていただきます。

まず、資料2の「ビジョンの実績確認シート」の2のところです。新収蔵品について、収集作品の情報をデータベース化してインターネット上で公開しているとのことで、大変な作業をされているのだと分かりました。この作業はどなたが担当されているのか、学芸員の皆さんが交代でされているのか、あるいは会計年度職員のような形で雇用して対応されているのか、その点を教えていただければと思います。

続いて次のページの、富重写真所の調査についてです。これは一括寄贈などで既に館蔵品になっているのかどうか。また、文化庁など関係機関と連携しながら保管方法を検討しているとのことでしたが、御承知のように、東近美のフィルムセンターだったと思いますが、何年か前に自然発火で火事になったという事例もありますよね。古いフィルムですと起こりうることで、富重写真館の資料についても、フィルムが多いのか、プリントが多いのか、その内容物について伺いたいと思いました。熊本でも非常に重要な写真館ですので、火災などの危険性もあると思い気になっています。

最後に、実績確認シートの件です。県美さんは以前、入口のいわゆるお土産コーナーにはあまり力を入れないと伺っていたのですが、先ほどのご説明では新規商品を販売し、さらに壁面に新しいコーナーも設けられていました。個人的には、商品が増えるのはとても嬉しいですし、開発されていると聞いて喜ばしく思いました。これは感想になりますが、先ほどの2点について御教示いただければありがたいです。

○事務局

まずデータベースについてですが、基本的には学芸員が手作業で登録しています。令和4年度に運用を開始し、それ以前から1件1件、昔のデータベースから移行する形で登録を進めてきました。時々間違いが見つかることもありますが、その都度学芸員がチェックして公開しています。

新規収蔵品が入るたびに台帳を作成するのですが、データベースから台帳形式で出力することもできるため、登録と台帳作成、写真の登録を並行して行っています。取りまとめ役の学芸員と、各分野の担当学芸員が共同で管理している状況です。欧米ではレジストラ（登録担当職員）のような専門職がいる場合もありますが、当館ではすべて学芸員が担っています。

次に、富重写真所資料についてです。御心配いただく点はまさにその通りで、現状ではまだ最終的にどうなるかは決まっていません。富重さんの御意向を尊重しつつ、現在は「調査のための一時預かり」という形で資料をお預かりしています。今後については、御意向を踏まえながら相談のうえ決定していくことになります。

ご指摘の通り、フィルムの保管には自然発火の危険性があります。ただ、今回調査対象となっている富重写真所資料の中心は、ガラスの湿板・乾板や機材類で、フィルムは一部に含まれる程度です。そのため、発火の恐れは比較的低いと考えています。とはいえ、フィルムや乾板は本来、超低温での保管が望ましいため、保存環境の検討は必要です。

また、機材類の中にはカビが発生しているものもあります。個人所蔵物であるため避けられない部分ですが、カビを取り除かずに収蔵庫に入れることはできません。既存の

収蔵作品にカビが広がる危険があるため、非常に慎重な対応が求められています。そのため現在は別の場所で保管しながら調査を進めています。専門家の意見も伺いながら、当館の施設環境の中でどのような保存方法が可能か、検討を重ねているところです。

○委員

地域活性化と交流促進の面でお尋ねします。資料1の14ページに入場者数の推移について記載がありますが、海外の方はどれぐらいの割合で来館されていますか。

○事務局

海外の来館者について具体的な統計は取っていませんが、コロナ以降は増加傾向にあります。特に東アジアの方は見た目では区別が付きにくい部分もありますが、数十名規模で来られることもあります。中国のクルーズ船が定期的に熊本へ寄港していることもあり、その流れで県立美術館に来館される方も多いです。

数字として「何割」とは言えませんが、日本人以外の来館者が確実に増えている状況です。

そのため、案内表示や解説文は基本的に日本語ですが、スマホの翻訳アプリで読んでいただくことは許容しており、時代に合わせて展覧会を楽しんでもらえるよう模索しているところです。

○委員

ありがとうございます。資料の中にも、熊本城周辺施設と連携した取組が報告されていますが、熊本ではインバウンドが大きく伸びており、昨年度は熊本空港を利用した外国人が過去最高、今年度はそれをさらに上回る勢いです。ぜひ、そうした海外の方々にも周辺施設と連携しながら積極的にアプローチしていただきたいと思います。

私自身、最近台湾を訪れましたが、行くと必ず故宮博物院や台北市立美術館など、その土地の文化施設に足を運びます。海外の方も同じように、その地域の文化に触れたいという思いを持っています。

ですので、ぜひその点を踏まえて取り組みを進めていただければと思います。よろしくお願いします。

○会長

美術館は観覧者数の把握はできても、年代や性別、市内外・県内外といった属性データは取りにくい施設だと思っています。ただ、何らかの形でそうした情報を少しでも取得できるようになると、どの層が弱いのか、狙った層に届いているのかといった検証がしやすくなるのではないかと、以前から感じていました。ありがとうございました。

他にございませんか？

○委員

感想と要望を含めてお話しします。ビジョンの取り組み（3）で説明のあった「美術

館活動の情報発信」について、さまざまな工夫をされていることがよく分かりました。事前にいただいた資料１の７ページを拝見したところ、ディック・ブルーナ展の後援に、幼稚園・保育園関連の団体が多数入っており、この展覧会ならではのユニークな連携だと感じました。その結果、未就学児の来館が多く、好評だったのだと思います。イベントやショップ、期間限定メニューなども充実していて、私も２種類ともいただきましたが、とても美味しかったです。グラフィックシートを使ったデコレーションなども含め、楽しい工夫が多く素晴らしかったと思います。

そこで１点質問ですが、こうした後援団体との連携は、美術館側から積極的に働きかけて実現されたものなのか伺いたいです。

また、要望になりますが、私は熊本県書店商業組合の理事長も務めており、県内書店と図書館が連携して読書推進に取り組んでいます。

今回のブルーナ展のように出版と関わりの深い企画や、「花とゆめ」のように雑誌が元になった展覧会、あるいは熊本ゆかりの作家を扱う企画などについては、県内書店としても店頭での情報発信や学校への案内など、協力できることが多いと考えています。ぜひ今後、そうした連携も検討していただければと思います。

○事務局

御質問・御意見ありがとうございます。まず、後援に入っていた私立幼稚園連合会や保育協会などについては、美術館から積極的に働きかけを行いました。今回の展覧会では、いかに多くのお子さんに来てもらうかが鍵でしたので、通常の A4 より小さい A5 サイズのチラシを作成し、幼稚園・保育園に配布しました。裏面を塗り絵にして、持参していただいた作品を館内に掲示するなど、楽しんで参加してもらえる工夫も行いました。

また、出版に関わる企画についてですが、今回のブルーナ展でも長崎書店様にご協力いただき、市内の書店に特設コーナーを設けてもらいました。ブルーナといえば絵本のイメージが強いため、店頭での展開が展覧会の認知にもつながりました。書店で展示を知り、来館された方も多かったようです。

さらに、今回の展覧会はブルーナ作品だけでなく、当館の所蔵品の中からテーマに合う作品も展示しており、所蔵品の新たな魅力を発見していただく機会にもなったと考えています。こうした流れを踏まえ、今後も出版や書店との連携を含め、より広く情報発信できるよう取り組んでいきたいと思っています。

○館長

皆さまからさまざまな御意見をいただき、ありがとうございます。まず、いただいた御意見のうち教育普及については、まさにそのとおりで、より多くの方に知っていただき、来館して「良かった」と思ってもらい、また足を運んでもらえるよう、広報に一層力を入れていきたいと考えています。今年からは、学校の担任の先生が発信する学級だよりや SNS 的な媒体にも、美術館の展示情報を載せてもらえるよう働きかけ、子どもたちや保護者への周知を強化していきます。

委員の皆様からの御意見大変ありがたく思っています。これからも美術の道を志す子どもたちに御支援をいただくとともに、今後も美術館と学校との交流を続けていければと考えています。

グッズに関するお話ですが、最近は多くの方がグッズを求めてくださることもあり、展覧会ごとにオリジナルグッズや図録を積極的に制作しています。今後も取り組みを続けていきます。

インバウンド対策については、特に細川分館の永青文庫や加藤清正関連など、熊本ならではの展示は外国の方にも人気があります。国際コンベンション協会や旅行会社との連携も進めており、インバウンドへの対応を強化していきます。

出版関係との連携についても非常に重要だと考えています。知っていただくためには多様な媒体との協力が不可欠ですので、ぜひ今後も連携を深めていければと思います。ありがとうございます。

○会長

ありがとうございました。

議事（２）令和６年度熊本県立美術館分館（指定管理）の運営について

○会長

続きまして、議事の２番目になります。令和６年度、熊本県立美術館分館。こちら指定管理の運営について、説明をお願いいたします。

○指定管理者

分館の指定管理の状況について御報告させていただきます。お手元の資料「令和６年度熊本県立美術館分館、事業報告書総括表」に沿ってお話いたします。

（資料にそって説明。要旨は下記のとおり）

- ・改修工事終了により通常運営が再開し、来館者 13.1 万人・利用率 84.5%と大幅増加。
- ・満足度は 78.4%で、清掃・接客への高評価が多い。
- ・管理業務・法令点検はすべて適正に実施。
- ・収入は前年比大幅増だが、電気料金高騰などで約 276 万円の赤字。
- ・コロナ後に利用は回復傾向だが、団体減少により収入増は困難。
- ・来館者 271 件、利用者 45 件のアンケートでも概ね良好な評価。
- ・令和 9 年 3 月～令和 10 年 3 月に再度改修工事のため休館予定。
- ・指定管理 16 年目として、利用者主体の運営を継続する方針。

委員質疑

○会長

ありがとうございました。コロナ禍が明け、通常業務に戻られたという御報告だったと思います。この内容について、ほかに御質問や御意見があればお願いしたいのですが、その前に私から 1 点伺わせてください。

意見・苦情対応の項目にあった「1階トイレの洋式が1つしかない」という件について、改善状況の説明が特に触れられていなかったように思います。次年度の保全計画に基づく改装で改善されるのかと期待して拝見していたのですが、現状どのような見通しになっているのか教えていただければと思います。

○指定管理者

一応予定としましては、改修工事に伴って令和式のトイレが全て洋式になる形です。

○会長

ありがとうございます。以前私が担当していた施設でも、和式トイレへの不満は特に高齢の女性から多く寄せられていましたので良かったです。

他に意見はございませんか。それでは次に移りたいと思います。

報告事項

○会長

その他報告事項について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

その他報告事項につきまして御説明いたします。お手元の資料4を御参照ください。
(資料にそって下記項目について説明)

1. 第2回美術館協議会での意見への対応状況
2. 令和7年度(4～12月)事業報告(暫定)
3. 令和8年度(次年度)事業計画(案)

委員質疑

○会長

ありがとうございました。大きく3つの御報告をいただきました。これらの報告につきまして御質問や御意見あるいは感想でも結構ですので、一言いただけないかと思います。いかがでしょうか。

○委員

子ども向けのスクールミュージアムとミュージアムバスについて、資料を見ると10月から12月に6校ほど書いてありますが、もうこれ以上は増やせないのでしょうか。大きい学校もあれば小さい学校もあるので、選び方を工夫すれば、もう少し数を増やせるんじゃないかとも感じています。

それから、実施時期が10～12月というのも少し遅い気がしていて、できればもっと早い時期に行けたら、子どもたちに「美術館ではこんなことをしているよ」と早めに紹介できるんじゃないかなと思いました。

あと、子どもたちも大事ですが、実は一番のキーパーソンは保護者だと思っていて、

保護者の参加をもっと広げられると、美術館の取り組みもより広まるんじゃないかと感じました。資料には参加者に「保護者」と書いてありますが、できればすべての保護者に参加してもらえればいいなと思いました。

○委員

美術館の教育普及の取り組みには本当に感謝していて、子どもたちの文化への興味を高めるためにいろんな工夫をされているのがよく分かります。うちの学校も今年スクールミュージアムに申し込んだのですが、残念ながら選ばれませんでした。ただ、美術館から遠い学校が優先されているのだろうというのは納得しています。

10年ほど前に自分が美術を教えていたとき、中央区の中学生に「美術館に行ったことある人」と聞いたら、手を挙げたのが半分以下で衝撃を受けました。それで、せめて自分の授業の中だけでも美術館に触れる機会を作ろうと、宿題にしたりいろいろ工夫してきました。

だからこそ、このスクールミュージアムは本当に魅力的で、今回は授業参観の日に来てもらって、親子で一緒に鑑賞する姿をイメージしていたので、叶わなかったのは残念です。でも、こうした活動自体はとてもありがたいし、すぐに効果が見えなくても、熊本の文化や人材を育てる土台になると思うので、ぜひ地道に続けていってほしいと思っています。

○事務局

今年もスクールミュージアムの応募が多くて、なるべく遠方の学校を優先したために採用できなかった学校があり、本当に申し訳なく思っています。

スクールミュージアムは毎年10月から12月の秋を中心に実施しています。というのも、作品の保存状態を守るためには温度や湿度の条件が大事で、秋が一番適しているんです。募集は春に行い、採用された学校には夏休みの間に私たちが出向いて、展示環境が作品にとって安全かどうかを細かく調査します。日光の入り方や準備物の確認など、先生方とも打ち合わせを重ねて、ようやく秋に開催できるという流れです。

冬は体育館がとても寒く、子どもたちがつらい思いをするので、以前は12月ぎりぎりまでやっていましたが、今は10～11月が中心になっています。また、保護者や地域の方にも見てもらえるよう、学校側に広報してもらい、こちらからポスターも提供しています。実際、地域のお年寄りの方も多く来てくださっています。

学校の規模はさまざまですが、以前1000人を超える高校で実施した際、展示が簡易パネルだったこともあり、子どもたちが作品に当たりそうになるなど危険があったため、あまりに人数が多い学校は避けるようにしています。そうした点も含めて、慎重に運営しているところです。

○会長

いろいろな御苦労の上で実施されているということがよくわかりました。ただ、委員がおっしゃったように、熊本市内の学校でも子どもたちがなかなか美術館に行かないと

いう現状を考えると、遠方の学校だけでなく、市内の学校ももう少し選んでもらえるといいのかなと思いました。他にご意見はありますか。

○委員

1つの美術館にいろんな要望が集まってきて、全部に応えていかなきゃいけないという大変さがあると思うんですが、今日の報告を聞いていると、現場と行政が一体になって、すごく真摯に取り組んでいるのが伝わってきました。

ただ、美術館の根幹はやっぱり収集と展示だと思っています。正直に言うと、今回の御報告にあった企画展がホキ美術館展とディック・ブルーナ展の2本だけというのは、これまで自主企画で力の入った展覧会をされてきた美術館の姿を知っている者としては、少し寂しい気持ちもありました。もちろん、分館や博物館、現代美術館との役割分担や、集客の必要性など、いろんな事情があるのは理解しています。

それでも、美術ファンが「見に行きたい」と思って足を運ぶような展覧会を続けていくことは、美術館にとってとても大事だと思うんです。大人が真剣に作品と向き合う姿を子どもたちが見ることこそ、最高の教育普及になるので。

ただ、来年度の予定を伺って、力の入った自主企画展が準備されていると分かり、とても期待が持てました。特に肥後仏の展覧会は、これまで積み重ねてこられた研究の成果が形になるもので、地域の財産でもありますし、子どもたちにも見てほしいし、外からも研究者が集まるような展覧会になると思います。

来年に向けて期待が高まったということ、ひと言お伝えしたいと思いました。

○会長

貴重な御意見をありがとうございました。

○委員

美術館の運営ビジョンの中にある「地域活性化・交流促進」について、6年度の報告で挙げられていた課題に、とても共感した部分がありました。それが、熊本城周辺の施設と連携して、人の流れが循環するような仕組みを定型化していくという点です。これは博物館としても常に課題だと感じているところで、ぜひ一緒に参加したり協力したりできればと思っています。

美術館も博物館も、展覧会、資料整理、調査研究、教育普及、施設管理などで手いっぱい、新しい事業をやろうとすると「誰が担当するのか」という問題が必ず出てきます。だからこそ、こうした枠組みをしっかりと作っていくことが大事だと思っています。

熊本市内には、熊本城エリアと水前寺・江津湖エリアという2つの特徴的なエリアがあります。熊本城エリアはイベントが城に引っ張られがちですが、実は緑も多く、アップダウンもあって、工芸館や城彩苑、国際交流会館など歩いて回れる施設が揃っています。健康づくりの視点でウォーキングイベントなどを組み合わせても、人の流れを生み出せるのではないかと思います。例えば、各館が少しずつ費用を出し合って、地元のイベント会社に委託して年に1～2回イベントを実施する、といった方法もあるのではな

いかと考えています。

いずれにしても、美術館がこの「人流が循環する枠組みの定型化」を課題として明確に書いていたことに、とても共感したということをお伝えしたかったので、申し上げます。

○委員

先月でしたか、熊日新聞で県立美術館の50周年の記事を読んで、展示の歴史だけじゃなくて、県民と一緒に歩んできた積み重ねが本当に大きいんだと感じました。専門性と公共性、その両方を両立させる難しさに向き合い続けてきたこと自体が、この美術館の誇りだと思います。

これからの50年も、ぜひ県民とともに歩いて行ってほしいという気持ちを込めて、感想としてお伝えしました。

○会長

ありがとうございます、とてもいい雰囲気での議論がまとまったところなんですが、最後にひとつだけ、ちょっと現実的な質問をさせてください。観覧料のキャッシュレス化について、美術館としてどう考えていらっしゃるのか伺いたいと思って来ました。

というのも、先日山下清展に駆け込んだときに、東京から仕事で来ていた知り合いの女性と偶然会ったんです。タクシーでキャッシュレス決済で来られて、そのまま入館しようとしたら「現金のみです」と言われたそうで、近くにATMもなく、歩いて国立病院まで行くよう案内されたらしくて…。もう諦めようかと思っていたところで私を見つけて、腕をつかんで「お金を貸してください」と。もちろんお貸しして一緒に見ることができましたが。

先ほどの外国人観光客の話にも通じますが、都会から来る若い方も現金を持たない方が増えていますので。県の施設としてキャッシュレスに対応するお考えがあるのかどうか、そこをお聞きしたいと思って質問させていただきました。

○事務局

キャッシュレス化については、本当にお恥ずかしい限りなんですが、特別展では一部導入しているものの、常設展ではまだ対応できていません。ただ、今年度中には必要な機器も含めて導入する方向で動いていて、今まさに本庁と協議しているところです。本来もっと早く取り組むべきだったのに遅れてしまい、申し訳なく思っています。

現金のみという状況は、インバウンド対策の面でも大きな課題だと認識していますので、できるだけ早く対応したいと考えています。

それから、他館との連携についてもお話がありましたが、改正博物館法でも連携による文化観光や地域活性化が求められています。まずは熊本市の共通チケット（熊本城、市博、城彩苑）に県としても参加できないか、関係部局と協議を始めたいと思っています。会計の問題などすぐに解決できない部分もありますが、前向きに取り組んでいきたいです。

また、委員からご指摘がありました通り、県民に寄り添うという姿勢を大切にしながら、50周年を迎えた今後も、さまざまな分野の展覧会を通して多くの方に喜んでいただける美術館を目指していきたいと考えています。

○会長

ありがとうございます。現在進行されている試行も伺うことが出来まして安心いたしました。他に何かございませんか。よろしいでしょうか。

では、これにて議事と報告が終了したということで、議事進行に御協力いただきまして、本当にありがとうございました。これで事務局の方に司会をお返ししたいと思いますよろしくお願いします。

○館長

今日は長時間にわたって、皆さんから本当に貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。最後の方ではスクールミュージアムやミュージアムバスの話も出ましたが、教育普及は私たちにとっても非常に重要な取り組みです。

今、学校では主権者教育、租税教育、環境教育、金融教育など、さまざまな教育活動が増えていて、生徒も先生も本当に忙しい状況です。その中で社会科見学としてバスを借りて出かけることもあります。そこに美術館見学も組み込んでもらえるよう、学校側が使いやすいプログラムづくりをどう進めるか、まさに議論しているところです。教科の縦割りをどう越えるかという課題もありますが、工夫次第でうまく組み込めるのではないかと考えています。

そして、子どもたちだけでなく、大人が「行きたい」と思える美術館であることも大事だというご意見をいただきました。まさにその通りで、私たちも改めて自分たちの取り組みを見つめ直し、しっかり応えていきたいと感じています。

また、地域との連携についてもご指摘がありましたが、そこは今後さらに力を入れていきたい部分です。皆さんからのアドバイスやご意見をいただきながら、より良い美術館づくりを進めていきたいと思っています。

本日は本当にありがとうございました。